

2-19 子どもたちと語り合うには？

子どもたちは見た感動や、素朴な疑問をストレートに語ります。子どもたちに接し、また質問に答える時などは、どのような点に気をつければよいのでしょうか。「地球はどうして回っているの?」「なんで宇宙があるの?」というような、やや答えにくい質問も、子どもは容赦なく投げかけてきます。大人を悩ませる問いかけに対する心得とは？

ポイント1 子どもたちと視線の高さを合わせる

講座などでも、ひとりひとりの子どもたちと会話をする感覚で話しかけてみましょう。会場を見渡して、目を合わせていくことも大切な要素です。また、「自分には皆さんと同じくらいの年齢の子どもがいるよ」とか、「自分が皆さんと同じくらいの頃には、星を見るのが好きだった、〇〇をしていた」など、最初に自己紹介を行い、子どもたちとの接点をつくらんといいと思います。

ポイント2 活発になりやすい雰囲気を作る

全体的に、イベントの会場では子どもたちが反応しやすい雰囲気作り、つまりスマイルや聞き取りやすい声の大きさが大切です。

また、子ども向けに話したことのない人は、ついどうしても大人と同様に接してしまい、普通に敬語で話しかけることがあります。幼稚園や小学校低学年の子どもに対しては、それではうまくいかないことがあるでしょう。NHKの子ども番組などを参考にして、「ほしのおにいさん」や「ほしのおねえさん」になる感覚で話しかけてみましょう。

ポイント3 動きを持たせる

集中力を持続させるには、ときには手をあげてもらったり、声を出してもらったりして、動きを持たせた方が、子どもたちは飽きることなく、話に集中してくれると思います。

クイズ形式にして答えてもらうとか、簡単にできるハンズ・オン（実験など）を盛り込むと子どもたちも親しみやすく参加できます。

ポイント4 子どもにも幅があることを理解する

ひとことで「子ども」といっても年齢によって反応は異なります。小学校低学年にうけるものが高学年や中学生にはうけないということはよくあります。対象が決まっていれば、参加する子どもたちの年齢を知った上で内容を作るとよいでしょう。

ポイント5 質問に備える

子どもたちの質問に応えるポイントとしては、

- ・ 抽象的な表現はなるべく避ける
- ・ 子どもが体験したことのあるような具体例を交えて話す
- ・ 子どもが「知っている言葉」や「理解できる言葉」で、なるべく説明できるようにする
- ・ 身近なものに例えたり、スケールを身近なものに置き換える

といった配慮をしたいものです。子どもたちが、頭の中でイメージしやすい状態を作ることが大切になります。

また、多くある質問をあらかじめ知っておくことも、準備として有効です。

ポイント6 答えられない質問は

はぐらかしたり、適当な知識を教え込んだりするのではなく、素直に「それは難しい質問だね、どうしてだろう」と、答えることもとても大切です。ズバリ答えを言うよりも、子どもたちの心に残ることもあります。

ときには地球人としてともに考え、宇宙の不思議に自由に思いをめぐらせましょう。的確な答えを与えるよりも、心の通う会話で宇宙の話そのものを楽しむことも大切です。

すべてを知っている、伝えるのではなく、共に宇宙を考え楽しむことができればよいという気持ちで、気軽に子どもたちと宇宙を語ってみると、大人も新たな発見ができることでしょう。



子どもにとって、目を合わせる、同じ視線で話しかけることは安心感にも繋がりますし、お互いにとっても話しかけやすくなります。

